

がん看護専門看護師 田村恵子の仕事

希望は、必ず見つかる

- ◆ 種別：DVD ビデオ (テレビ放送番組)
- ◆ 編集：NHK
- ◆ 発行／販売：NHK エンタープライズ
- ◆ 放送日／発行年：2008年6月24日放送／2009年
- ◆ 時間：本編 43分
- ◆ 音声／字幕：日本語



© 2011 NHK エンタープライズ

あらすじ

がん看護のスペシャリストである田村恵子看護師を取り上げたドキュメンタリー番組である。末期がんと闘う男性は、娘の結婚式を見ることを楽しみにしていた。しかし医師の診断では、1か月半後の結婚式に出席できる可能性は低かった。

田村看護師は、男性がせめて娘のウェディングドレス姿を見られるように、結婚式の写真を前撮りすることを家族に提案する。家族は賛成するが、それを男性に伝えることができない。なぜならこの提案は、結婚式を楽しみにしている花嫁の父に“結婚式には出られない事実”を告げることになるからである。そこで、田村看護師はどのような言葉をかけたのか。

Chapter

1. 今回のプロフェッショナル／2'27
2. 専門看護師 田村恵子 命の現場／13'35
3. スタジオトーク (1)／7'06
4. 生き方を決めた出会い／3'07
5. スタジオトーク (2) 4'40
6. 花嫁の父を支える／13'52
7. プロフェッショナルとは／1'07

シーン再現

ナレーション：背中を押された田村が切り出した。

田村看護師：結婚式にね、もちろん行けたら行ってもらいます。そのようにしたいと思っています。ただ、今、先生お話しはったみたいで、難しい可能性もあるかなって、そういうお話でしたよね。それで、結婚式の写真をなんか先に撮れる、そういうシステムがあるんですって。そういうのを少ししようかなあっていって考えてはるんだけど、お父さんはどうですかって。

花嫁の父：それは、したいですね。

田村看護師：そういうふうにして準備してもいい？ じゃあ、そうしようか、ね。せっかく、ね、晴れ姿ね、やっぱりちゃんと見れるほうがいいもんね。

花嫁の父：……がんばりますわ。



田村恵子看護師

看護専門学校には教育学の授業がある。一見、看護と教育は関係ないため、教育学を学ぶ意味がわからない学生も少なくない。だが実は看護と教育には接点が多い。看護を題材とした DVD を教育学の視点から捉えることで、看護や看護師の仕事についてより深く考えることができる。

まず看護師には、知識・技術向上のために生涯にわたって教育・学習が求められる。今回取り上げられている「専門看護師」とは、特定の分野について知識技術を深めた看護師のことであり、一定の実務経験を積んだ後、大学院を修了することで認定される。

この他にも今回の DVD には看護と教育の接点を考えるヒントが隠されている。看護師は本来患者の快復をめざす仕事だが、余命いくばくもない患者の場合には事情が少し異なる。田村看護師は、末期がんの男性が思い残すことなく「生ききる」ことができるように結婚式写真の前撮りを提案した。男性は意識を保つことに精いっぱい状況でありながら写真撮影に臨み、その 2 日後に息を引き取った。

教育とは人の「生きる力」を豊かにすることであると言われる。桑原敏明は、「人間 A は、みずからこの力を増し強めようとしている（成熟や経験）。これを他の人間 B が援助しようと働きかけるとき、この働きかけを『教育』と呼ぶ」と述べる*。田村看護師は、患者が自分らしい人生を全うできるように、看護師の立場から全力で支えた。それは患者の「生きる力」を豊かにすることであり、看護の場面における「教育」であった。

実際に授業で DVD を観た後、ある学生が次の感想を述べた。「終末期の患者さんはそれぞれの思いがあり、辛いこともたくさん抱えていて、でも自分でも整理できないことがあると思う。看護師の関わりで患者さんが変わっていく。そういうところでも『教育学』と結びつくことはたくさんあると思う」。DVD を観て、看護師の仕事や教育学を学ぶ意味について自分なりの考えを深めている。まさにこれは、学生の「生きる力」を豊かにすることができる作品であるともいえる。

* 教育制度研究会編『要説 教育制度[新訂第三版]』学術図書出版社、2011年、p.2.

人の「生きる力」を豊かにすること

Information

【DVD】看護専門学校の授業で観るなら次の DVD もおすすめ

- ・『院内学級教師 副島賢和の仕事』2011年、編集：NHK 発行/販売：NHK エンタープライズ、本編 47分

【書籍】番組の内容をまとめた単行本

- ・NHK「プロフェッショナル」制作班・編『プロフェッショナル仕事の流儀 2008-2009』ポプラ社、2010年